令和３年３月１６日
青森河川国道事務所
青　　森　　県

第13回 奥入瀬渓流利活用検討委員会の開催について

■「奥入瀬渓流」は、我が国が世界に誇る貴重な自然環境や美しい自然景観を有しており、後世に守り伝えていかなければならない国民共有の財産です。
■国民の貴重な財産である奥入瀬渓流の自然保護と利活用を両立させる交通マネジメントなど、渓流に並行している国道１０２号の利活用策を検討することを目的に、平成２５年１０月、奥入瀬渓流利活用検討委員会を設立しました。
■第１３回目となる委員会では、平成３０年６月に策定された「奥入瀬ビジョン」に基づく「交通システム」における、今年度の検討状況や次年度の取り組み方針について意見交換を行うほか、「観光振興」の取り組み内容と次年度以降の対応方針についても意見交換を行います。

１.日時　：　令和３年３月２３日（火）１５：００～１７：００

２.場所　：　青森河川国道事務所　２Ｆ大会議室・災害対策室

３.議事　：　１）交通システムについて
２）奥入瀬・十和田地域の観光振興について
３）知っていただく仕組みづくり
４）２０２１年度　今後のスケジュール（案）

４.委員名簿　：　別紙１参照

５．その他　：　会議は公開で行いますが、カメラ撮り等は、冒頭から挨拶までとします。
会場での傍聴は、マスク着用のうえ、新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力お願いいたします。
なお、会場の都合により一般の方の傍聴はできません。

＜記者発表先：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社＞

【奥入瀬渓流利活用検討委員会　事務局】

国土交通省 東北地方整備局　青森河川国道事務所　（直通）017-734-4570
調査第二課長　葛西（かさい）　弘樹（ひろき）　（内線 451）

青森県 県土整備部 道路課　（直通）017-734-9651
整備推進ｸﾞﾙｰﾌﾟﾏﾈｰｼﾞｬｰ　松橋（まつはし）　聡（さとる）（内線 6712）

別紙１

奥入瀬渓流利活用検討委員会

委　員　名　簿

氏名	所属・役職等
石田 東生	筑波大学　名誉教授
泉山　元	一般財団法人 北海道東北地域経済総合研究所　理事
内山　清	青森中央学院大学　教授
九戸 眞樹	弘前市教育委員会　委員長(～H30.5)
幸丸 政明	東京環境工科学園　参与
武山　泰	八戸工業大学　教授
谷口 綾子	筑波大学大学院　教授

敬称略・五十音順

オ　ブ　ザ　ー　バ　ー

氏名	所属・役職等
三村 申吾	青森県知事
小山田 久	十和田市長
小又　勉	七戸町長
佐々木 あつ子	青森県　環境生活部長
下村　誠	青森県　県土整備部長
秋田 佳紀	青森県　観光国際戦略局長
楠美 祥行	青森県　上北地域県民局長
中山 隆治	環境省　東北地方環境事務所長
亀山 秀一	国土交通省　東北運輸局長
梅野 修一	国土交通省　東北地方整備局長
小田原 雄一	国土交通省　東北地方整備局　道路部長
一戸 欣也	国土交通省東北地方整備局 青森河川国道事務所長

参考

奥入瀬ビジョン
～地域の目指す姿を実現するための戦略～

（１）基本戦略

１）人財確保：地域の持続的発展や地域を担う人財確保などを念頭に、総合的な地域づくりを進める。

２）魅力の創出：奥入瀬渓流の自然環境の魅力を最大限に活かすために、奥入瀬渓流を「天然の自然博物館」として捉え、各分野が共通認識の基、各種取組を進めていく。

３）交通の転換：奥入瀬（青撫山）バイパスの共用により、奥入瀬渓流の交通をバイパスに転換し、自然環境の保全や観光に活用していく。

４）環境保全：十和田八幡平国立公園の「公園計画書」や「管理計画書」を遵守することを基本とし、「十和田八幡平国立公園ステップアッププログラム 2020」の取組方針と連携を図る。

５）広域連携：奥入瀬・十和田湖地域の持続的な発展を確実にするために、周辺地域との広域的な連携を図る。

（２）各分野の戦略

Ⅰ）環境保全：①ゾーンコンセプトの明確化、②立入りによる撹乱を防止、③貴重自然環境の永続的な保全

Ⅱ）観光振興：①滞在型観光の推進、②地域住民等のニーズにも応えつつ、各地区のコンセプトを明確にした観光の推進、③ターゲット客を明確にした地域ブランドづくり・観光資源の発掘、④奥入瀬ゾーンと十和田湖ゾーンの連携や広域連携による観光の推進、④冬期観光の推進

Ⅲ）交通システム：高齢者や障害者等を含めた様々な方に奥入瀬渓流を安全に気持ちよく散策し、満喫してもらえるような交通環境を目指し、バイパスへの抜本的な交通転換のために、交通規制の導入を行う。

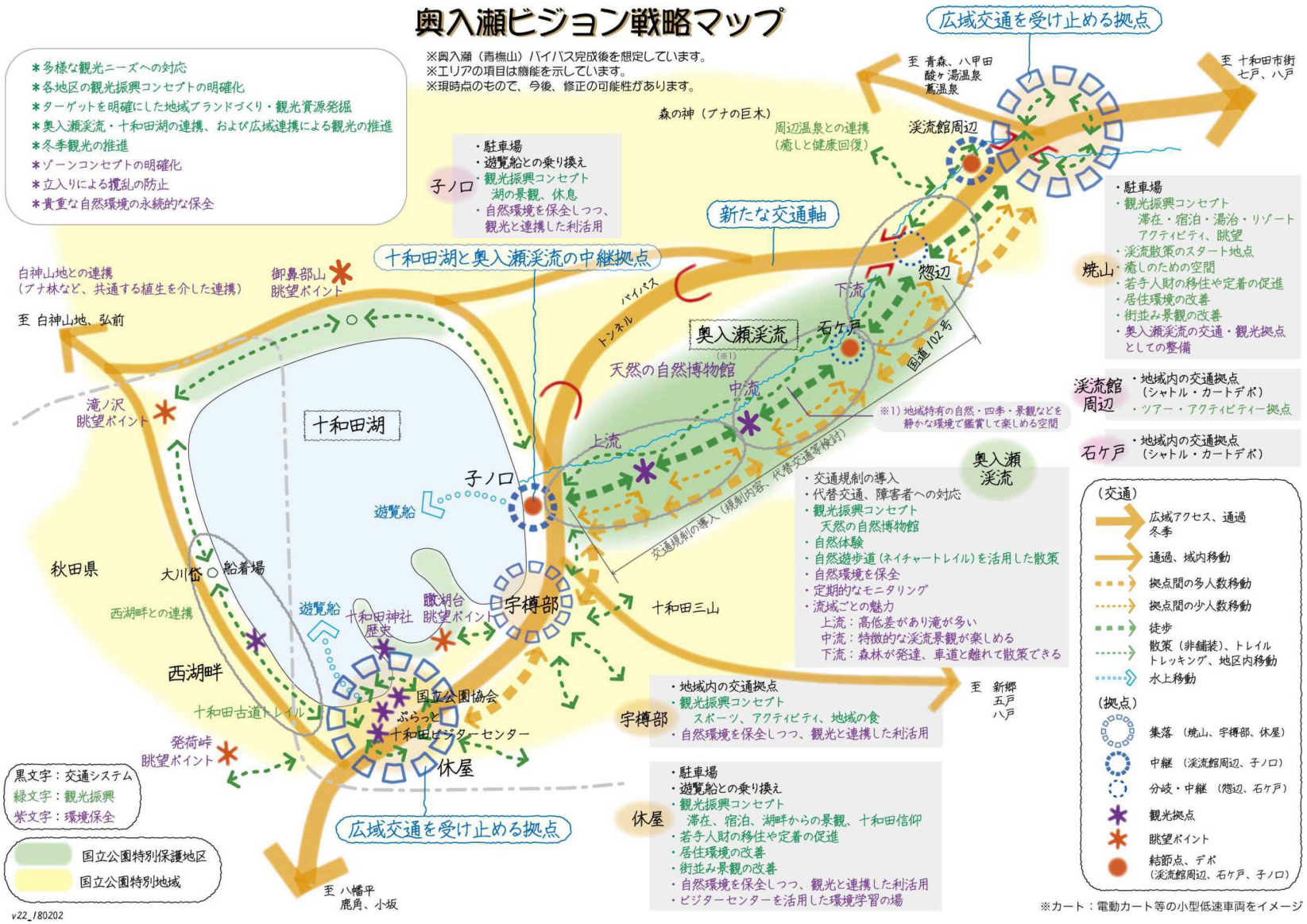

図　分野別の戦略マップ（統合版）